

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスあびりてい				公表日	2025年3月5日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5			動くエリア、静かエリアを明確にする必要がある。(利用児が剥がせないような場所に掲示したり、マットで色分けする)	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	4			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5				
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5				

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2		その経験がない
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		5		該当者がいない。その経験がない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	4		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	1		他事業所の子どもとの交流をしている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	4		その経験がない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	2		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5				
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4	1		兄弟同士での交流会は設けていないため、今後検討していきたい。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			共有、報告をし対応している。その後の対策も考えている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5				
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5				
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		その経験がない。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5				
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5				
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5				
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1		アレルギー対象者がいない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5				
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5				
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5				
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5					

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス あびりてい		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 18日	～	令和7年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日	～	令和7年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作戦会議の実施による自己表現力の向上 子どもたちが気軽に意見を言える場を提供し、成功体験・失敗体験を通して自己表現力を高める機会があります。 ルール決めや人間関係の課題解決など、主体的に考える力を養っています。	子どもたちが安心して自分の意見を話せるように、作戦会議の最初に「話すルール(否定しない、最後まで聞く、反応するなど)」を確認し肯定的な雰囲気を作っています。発言しにくい子には職員が声をかけ話しやすい環境を整えています。言葉での表現が難しい子にはカードやホワイトボードを活用し考えやすいようにサポートしています。また、意見が出た際には「いいアイデアですね」と肯定的に返し子供たちが自信を持って発言できるように意識しています。	作戦鍵の内容を簡単な議事録の形で残り、振り返りの時間に活用できるようにし、子どもたちが「前に話したことが活かされた」と実感できる仕組みを作ります。また司会や進行役を交代制にすることで、発表以外の役割も経験できるようにします。さらに、「どの意見がどのように活かされたか」を後日フィードバックし、子どもたちが自分の意見が尊重されていることを実感できるようにすることで自己表現への意欲を高めています。
2	姿勢保持のための毎日の「1分間姿勢タイム」の導入 体幹の弱い子どもへの支援を日課として行い、継続的な取り組みで姿勢保持力を向上させます。 クールダウンの役割も果たし、活動への集中力を高める工夫があります。	体幹の弱い子どもたちの姿勢保持をサポートするための取り組みです。姿勢を意識しやすいように職員が手本の姿勢することで視覚的に説明しています。1分間という短い時間で行うことで、飽きることなく継続しやすいよう工夫しています。また、毎日の継続で姿勢保持の時間が伸び、深呼吸を取り入れることで自然と静かな環境が生まれます。活動の始まりや終わりのクールダウンにも活用し、集中力の向上にもつなげています。今では、先生たちが忘れてしまうと「1分間姿勢は？」と子ども達から教えてくれます。	その日の時計係に「みんなの姿勢をチェックする役割」をになってもらい、主体的に取り組めるように促します。また、「1分間姿勢保持が出来たらシールをもらえる」などゲーム感覚で取り組める工夫や、深呼吸に加え気持ちを落ち着かせる言葉を唱えるなど、集中力向上につながる工夫も取り入れていきます。これらの取り組みにより、楽しみながら姿勢保持の習慣を身につけ、集中力や体幹の向上につなげていきます。
3	帰りの会での「振り返りタイム」の導入 1日の経験を整理して自己認識力を高めたり、成功体験を共有することで自己肯定感を育てます。	子どもたちが短い言葉でも振り返りやすいように「今日1番楽しかったこと」「頑張ったこと」や「気づき」はないかと問いかけるようにしています。振り返りを行うことで、「また明日も頑張ろう」と思えるように「〇〇ができるようになってすごいね」「〇〇を頑張っていたね」と具体的に伝え、成功体験をしっかり認める言葉かけを意識しています。	振り返りの内容を保護者にも共有し、家庭での会話につなげることで子どもたちの成長をより実感してもらえようになります。また、職員同士でも振り返りを行い、「どの声かけが効果的だったか」「より良い振り返り方法はないか」などを話し合い、支援の質を向上させる工夫をしています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援と集団活動のバランス調整 個性を尊重する方針と、集団でのルールを学ぶ機会の両立が難しい場合があります。 子どもによっては、集団行動への適応に時間がかかる可能性もあります。	個別支援を重視すると集団活動の機会が減り、逆に集団活動を優先すると、支援が必要な子どもへの配慮が難しくなることが課題です。	子ども一人ひとりの発達段階や特性に違いがあり、集団でのルールを学ぶ機会を確保しつつ、無理なく参加できる環境を整える必要があります。また、集団活動が苦手な子どもには、段階的に適応できる支援が求められます。職員間で支援の基準を共有し、個別支援と集団活動を適切に組み合わせる工夫が大切です。
2	多職種(保育士、児童指導員、看護師、作業療法士など)が集まるがゆえに専門以外の知識が浅いことがある。	当事業所には多職種の職員が在籍していますが、専門外の知識が浅く、支援の共通認識が持ちづらいことが課題です。業務の多忙さから学ぶ機会も限られ、支援の方向性にばらつきが生じることがあります。統一性のある対応を目指し、多職種間の知識共有と連携強化が求められています。	多職種間の知識共有と連携強化のため、定期的なミーティングや勉強会を実施し、専門分野の理解を深める機会を設けます。また、簡単なマニュアルを作成し、実践の中で学び合う環境を整えます。さらに、異なる職種の職員がペアで支援を行うことで、相互理解を促進し、統一性のある対応を目指します。
3	ありがたいことに、ご利用希望者の方が多いが、退会者も少なく、支援が必要と思われるお子さん達にご利用いただけないという状況です。	利用希望者が多い一方で、退会者が少ないため、新たに支援が必要な子どもを受け入れにくい状況が課題となっています。	支援を必要とする子どもたちに十分な機会を提供できるよう、受け入れ体制の見直しや、支援の枠組みを工夫する必要があります。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	公表日				2025年 3月 5日	
	放課後等デイサービスあびりてい					
	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点	
環境・ 整備・ 運営	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	2	3	・ 教具教材を使用していない。 ・ 教具教材で何を準備したらいいのか分からない。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	2	・ 訪問支援員が一人だけであると急な休みや複数訪問で対応が難しい時がある。	人員確保が必要になる。
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0		
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1		
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0		
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3		
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0		
適切な支援の提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	5	0		
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0		
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	0	5		
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1		
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1		
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0		
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	3		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0		
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	5	0		
18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	5	0			
19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0		
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1		
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	2	その経験がない。	
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	2	3	どのような支援が良いのか助言がほしい。	
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2	3		
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0		
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2		
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1		
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	5	0		
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	1		
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	5	0		
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	4	1	必要と希望があれば面談、相談を受けている。	
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1		
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0		
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	1		
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0		
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	4	1		
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	3	2	その経験がない。	
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	5	0		
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		

	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	4	1		
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1		
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1		
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1		
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0		
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	1		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス あびりてい		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 18日	～	令和7年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 18日	～	令和7年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	令和7年 1月 27日	～	令和7年 2月 10日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	10	(回答数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後等デイサービスとの連携 訪問支援員と放課後等デイサービスの職員と一緒に訪問し、子どもの特性や支援のポイントを共有することで、より統一感のある支援が可能。	訪問支援を行う前に、放課後等デイサービスの職員と事前打ち合わせを行い、訪問先で確認したいポイントや支援の方向性について共有しております。また、訪問終了後には、その日の様子や課題、成功した支援方法などを放課後等デイサービスの職員と振り返り、放課後の支援に反映できるよう努めております。特に、子どもの行動の変化や環境による影響については詳細に記録し、職員間で共有することで、支援の一貫性を保つよう工夫しています。	訪問支援員のスキル向上を図るため、定期的な研修やケース検討会を実施し、支援の質の向上に努めてまいります。また支援記録をリアルタイムで職員間で情報共有をし、訪問支援員と放課後等デイサービスの職員が随時情報を確認できる体制を整えることで、タイムリーな対応が可能となります。
2	支援の一貫性 訪問先(保育所・幼稚園・学校等)での支援が、放課後等デイサービスでの活動にも反映され、子どもの適応力向上につながる。	訪問支援員が実際に保育所や学校などの訪問先で観察・支援を行いながら、子どもの得意なことや苦手なこと、集団の中での振る舞い方などを見ています。その情報をもとに、個別支援計画を随時見直し、より実態に即した支援内容へと改善しています。例えば、訪問時に「活動の切り替えが苦手」という課題が見つかった場合、放課後等デイサービスでの支援においても、スムーズな切り替えを促すための工夫を取り入れるなど、具体的な対応策を講じています。	訪問先だけでなく、家庭でも実践できる支援方法を提案し、一貫した支援ができる体制を整えてまいります。たとえば、訪問支援員が実際に試した支援方法を保護者向けに分かりやすく解説し、ご家庭での取り組み方をサポートする資料を作成するなど、具体的な支援を強化してまいります。また、保護者との面談などの機会を増やし、ご家庭の悩みや要望に寄り添った支援ができるよう努めてまいります。
3	多職種連携の強化 訪問先の保育士・教員と連携し、支援の方向性を統一することで、子どもにとって安心できる環境を作る。	訪問時に情報交換をし、支援の方向性を統一しています。子どもごとの支援方針を策定し、環境が変わっても一貫した支援ができるよう工夫しています。さらに、訪問支援員が観察を通して得た子どもの特性や有効な支援方法を現場と共有し、支援の質を向上させています。訪問後は、放課後等デイサービスの職員や訪問先へフィードバックを行い、継続的な支援につなげています。	学校・保育所・その他の福祉サービスとの連携を強化し、包括的な支援体制の構築を目指してまいります。地域の関係機関と情報交換を行い、より多くの専門職と連携しながら支援の幅を広げていくことを考えております。また、地域の研修会や講演会へ積極的に参加し、他機関との協力体制を強化することで、より充実した支援を提供できるよう努めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先との日程調整の難しさ	限られた職員数の中で複数の訪問先を担当するため、希望の日時に訪問できないケースもあります。また、放課後等デイサービスとの兼ね合いもあり、訪問先と訪問支援員のスケジュール調整がつきにくいこともあります。	訪問先の希望日が重なりやすい時間帯には、複数の支援員が対応できる体制を整え、柔軟に対応できるようにします。また、訪問支援員が不在でも放課後等デイサービス職員が一定のフォローができるように支援内容の引継ぎを徹底し、放課後等デイサービスとの役割分担を明確化する工夫が必要になります。
2	学校の先生との信頼関係構築の大変さ	先生方は多忙で訪問支援員と話す時間を確保することが難しく、支援の目的や内容が十分に伝わらないことがあります。また、学校ごとに支援への考え方が異なり協力を得やすい学校と慎重な学校がある点も課題です。さらに、訪問支援員が得た情報が適切に共有されず、支援の成果が見えにくいことも問題となっています。	訪問前に支援の目的や流れを説明し、年度初めには資料を送付するなど学校側の理解を深めます。また授業後の短時間で報告するなど、先生方の負担を減らす工夫をします。定期的な訪問で信頼関係を築き、連携会議の実施や成功事例の紹介を通じて、学校との協力体制を強化し、支援の質を向上させていきます。
3	短時間での関わりが多く成果がすぐに表れにくいいため、学校や保護者に効果を実感してもらいにくい。	訪問支援は限られた時間内で行われるため、子どもの変化が現れるまでに時間がかかり、学校や保護者に成果が伝わりにくい状況です。さらに、支援の効果は徐々に表れるため、短期間では実感しにくく、「本当に支援が役立っているのか」と不安に感じることがあります。また、訪問支援の内容や子どもの成長が十分に共有されないことで、学校や保護者に支援の意義が理解されにくいことも課題となっています。	支援の成果を明確にするため、具体的な目標を設定し、成長を記録して学校や保護者に共有します。訪問後は短時間でフィードバックを行い、書面やメールで継続的に報告します。また、成功事例や小さな成長を伝えることで支援の重要性を理解してもらい、長期的な目標を共有しながら効果的な支援を進めてまいります。